

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 11 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24320051

研究課題名(和文) 19世紀以前の日本と東アジアの 仏伝文学 をめぐる総合的比較研究

研究課題名(英文) The comparative study of Japan and East Asia of before 19th century Literature of the Lives of the Buddha

## 研究代表者

小峯 和明 (KOMINE, Kazuaki)

立教大学・名誉教授・名誉教授

研究者番号：70127827

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,700,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果としては、第一に日本及び東アジアの 仏伝文学 をめぐる内外の図書館、博物館などに所蔵される資料調査を実施し、従来知られていなかった貴重な資料を相次いで発見し、収集したこと、第二にそれらの資料にもとづく研究会を日本や北京で継続させたこと、第三に 仏伝文学 に関する総合的なシンポジウムを立教大学で開催し、その補助的な意味をもつワークショップをアジアや欧米で複数開き、調査と研究の成果をもれなく公表し、論文集及び資料集として公刊する段階に至ったこと、等々である。

研究成果の概要(英文)：In terms of the results of my research, first of all, I conducted a survey of the Japanese and East Asian "lives of the Buddha" literature-related holdings of both domestic and international libraries, museums, and the like, discovering and assembling numerous previously unknown valuable materials. Secondly, I had research seminars based on those findings held in Japan and Beijing. Thirdly, I convened a general symposium on "The Literature of the Lives of the Buddha" at Rikkyo University, as well as several subsidiary workshops in Asia and North America. I have made exhaustive public presentations on the results of this survey and research and have also published collections of papers, reference materials, etc.

研究分野：人文学

キーワード：仏伝文学 東アジア 比較説話 メディア・ミックス 古典と近代の架橋

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 釈迦の生涯の物語は古来、仏教伝来のテーマには必ず付随して取り上げられ、シルクロードや敦煌などの遺跡で注目され、比較的なじみのある課題のように思われやすいが、日本では古代に関心がしぼられ、その後の展開が体系的、網羅的にたどられることはほとんどなかった。一部にそうした試みはなされてはいる、探索の範囲が限られ、必ずしも広範な成果をあげたとはいいがたい。以前から『今昔物語集』研究の一環として物語の始発である仏伝を取り上げているが、仏典や説教などの資料との一対一対応を追究する出典論や翻訳論ではなく、より広い世界からの見直しを痛感するに至った。また、東アジアをテーマとする過去の科研費活動において、仏伝文学が中国、朝鮮半島、ベトナムなど東アジアの漢字漢文文化圏においてもきわめて重要な領域としてあることを見出した。

(2) 日本では黒部通善『日本仏伝文学の研究』が公刊されているが、古代を主とする既知の資料が中心で、その後の中世仏伝や近世仏伝には充分視野が及んでおらず、ほとんど正統な研究対象となっていなかった。これに加えて、近代になると、近代的な仏教学の確立にもなるとあらたに仏伝の研究も進み、学問的な仏伝が記述され、それと同時に作家や評論家も仏伝を取り上げるようになる。明治以降、現代に及ぶ仏伝と称すべき著述はおびただしいものがあり、それらもまた研究対象にされることはきわめて少ない。本研究はこれらをも対象とし、ひとまず19世紀後半を境目にし、版本と活字本との区分を目安に近代仏伝ととらえ、前近代の仏伝と対比的にとらえる必要性が痛感される。これによって、ともすれば古典と近代に分断されて別途に扱われがちな文学史や文化史のあり方を相対化したいと考えるに至った。

## 2. 研究の目的

(1) 近年注目される日本と東アジアの漢文文化圏の課題の一環として、物語の一大原点ともいべき 仏伝文学 の全体像について、資料学の観点からその実体を掌握し、その特性や意義を明らかにする。基礎的で総合的な比較資料学としての学問的な確立を課題とする。日本の古代から中世、近世、近代に至る通時代の展開をふまえた上で、中国、朝鮮半島、ベトナムなど東アジアの漢文文化圏における仏伝をあわせて追究し、比較検証することで、日本と東アジア相互の 仏伝文学 の位置や意義を明らかにする。

(2) これにあわせて、絵画や造型における仏伝も対象とし、『釈迦の本地』の絵巻、絵入り本をはじめ、掛幅の涅槃図や釈迦八相図など、メディア・ミックスの文化状況をも解明する。

(3) 上記をふまえた絶好の例として15世紀・明代作の挿絵付の『釈氏源流』を主対象とし、北京で開催する東アジア古典研究会で注解を進め、同時代の日本の『釈迦の本地』などとの比較研究を通して、日本文学を東アジア文学の一環として定位する方向性を明らかにする。

## 3. 研究の方法

(1) 日本の 仏伝文学 の資料群の確定と目録の作成、国内の資料調査と収集

(2) 中国・台湾の 仏伝文学 関連の資料目録の作成、現地での資料調査と収集

(3) 韓国の 仏伝文学 関連の資料目録の作成、現地での資料調査と収集

(4) ベトナムの 仏伝文学 関連の資料目録の作成、現地での資料調査と収集

(5) 欧米所蔵の 仏伝文学 関連の資料調査と収集

(6) 研究会の組織化にもとづく総合目録の作成と公開、総合的な比較研究の推進

(7) 仏伝文学 の資料集の作成、公刊

(8) 仏伝文学 を主題とする国際会議の開催、各種成果報告、論文集の公刊

## 4. 研究成果

(1) 仏伝文学 のリスト作成と資料の調査・収集

まず、 仏伝文学 のリストを作成したが、日本においては、中世の『釈迦の本地』の伝本探索を推進できたので、従来のリストを大幅に拡充することができた。絵入り本はボドメール本、オックスフォード本、立教本、中野本等々。版本に関しては個々に収集できたが、量が膨大であるため、詳細な掌握にまでは至らなかった。近世はことに幕末の『釈迦八相倭文庫』の明治期活字本を複数入手することができ、近代への影響度を測ることができた。近代の仏伝も膨大であるため、明治大正期のものを中心に収集し、リストを作成したが、まだ多くのテキストがあり、今後も継続する予定である。

東アジアに関しては、北京で継続している明代の『釈氏源流』に関する伝本調査を試み、北京国家図書館、清華大学図書館、北京大学図書館、台湾国家図書館、台湾中央図書館、故宮博物院図書館、ソウルの東国大学図書館、ソウル大学奎章閣、中央図書館、ハノイ漢喃研究院、社会科学院図書館、ホーチミン市の恵光修院、ロンドン大英図書館、パリ国家図書館等々、多地域にわたる資料を調査、複写、デジカメ撮影などを行った。また、大同の千光寺の壁画や西安の興教寺の板額をはじめ、寺院の壁画などにも『釈氏源流』をもとにする絵画を調査することができた。ハノイでは、従来知られていなかったベトナム産の『釈迦如来応現図』を見いだした。

(2) 研究会の組織化と継続

北京の研究者を中心に東アジア古典研究会

を結成し、『釈氏源流』の注解を継続した。北京以外のメンバーも増えてきて、西安や厦門でも開催した。ソウルでも研究会の組織化を進め、準備会を持ったが、具体的な会にまでは至らなかった。今後も継続で会の開催を期したい。国内の研究会では、中世仏伝の代表作ともいえる慶応大学図書館の『釈迦如来八相次第』の翻刻と校異を進め、ほぼ完成した。同様にポドメール本『釈迦の本地』の翻刻と注解も進展中で、いずれも年度内に刊行の予定である。

#### (3) 国際シンポジウムの企画、開催

2014年7月に本科研のまとめとして、立教大学日本学研究所主催のかたちで、「日本と東アジアの 仏伝文学 と天竺世界」のシンポジウムを開催した。中国、台湾、韓国、ベトナムの研究者を招いて、基調講演と三つのセッションのシンポジウムを行い、多岐にわたる 仏伝文学 の意義が追究され、活発な議論がかわされ、おおきな成果を収めることができた。

#### (4) ワークショップの企画、開催

上記のシンポジウムが東アジアに限定されたため、さらに視野を欧米にひろげるため、2014年10月にロンドン大学 SOAS、2015年1月にパリのディドロ大学で 仏伝文学 に関するワークショップと各図書館での資料調査を実施した。さらに重要でありながら従来調査が充分及んでいなかった台湾の国家図書館などの調査に赴き、あわせて輔仁大学でワークショップを開催、研究のネットワークの拡充をはかることができた。

#### (5) 論文集と資料集の編集、公刊

以上の成果をふまえて、『東アジアの 仏伝文学』と題して、勉誠出版より三十数名からなる浩瀚の論文集を公刊する計画で、現在編集途中で年内には刊行の予定である。また、研究会で継続中の慶応大学本『釈迦如来八相次第』の翻刻、校異は年内刊行の『立教大学大学院日本文学論叢』に掲載の予定、さらにはポドメール本『釈迦の本地』の翻刻と注解を勉誠出版からカラー図版とあわせてこれも年度内に公刊の予定である。また、二三年内には研究代表者の単独の 仏伝文学 論文集も公刊できればと考えている。

追記

最後に、本科研の分担者として重要な役割を担っていた増尾伸一郎氏が 2014年7月、立教大学での仕上げのシンポジウムの直前に急逝されたのは痛恨の極みであり、ご冥福をお祈りしたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 10 件)

小峯和明、他 8 名(1 番目)、「日本と東アジアの 仏伝文学」『駒澤大学仏教文学研究』18号、査読無、2015.1、pp3 25

小峯和明、他 28 名(19 番目)、「釈迦の涅槃と涅槃図を読む」『これからの国文学研究のために』、笠間書院、査読無、2014.10、pp405 431

小峯和明、他 7 名(2 番目)、「日本と東アジアの 仏伝文学 『釈氏源流』を忠臣に」『仏教文学』39号、査読無、2014.4、pp18 32

金文京、他 13 名(7 番目)、「弘治本『西廂記』の挿絵について」、瀧本弘之・大塚秀高編『中国古典文学と挿画文化』、勉誠出版、査読無、2014.2、224、pp103~114

金文京、他 9 名(1 番目)、「東アジアの水戸黄門 日中朝の旅するヒーローの謎を解く」、早稲田大学多元文化学会『多元文化』3号、査読無、2014.2、pp1 - 20

小峯和明、他 34 名(1 番目)、「 仏伝文学 ・菩提樹の変移」、『立教大学日本文学』111号、査読無、2014.1、pp57 65

鈴木彰、他 34 名(2 番目)、「『一乗院経蔵記』にみる坊津一乗院と中世文芸 地域社会における文芸環境」、『立教大学日本文学』111号、査読無、2014.1、pp66 75

小峯和明、他 2 名(2 番目)、「儀礼と場法会を中心に」、『岩波講座 日本思想 儀礼と創造』七巻、岩波書店、査読無、2013.12、pp31 61

増尾伸一郎、他 12 名(5 番目)、「『三国遺事』にみる道教と花郎国仙 李能和『朝鮮道教史』を手がかりとして」、『袴田光康・許敬雲編『三国遺事』の新たな地平 韓国古代文学の現在』、勉誠出版社、査読無、2013.11、pp85 93

小峯和明、他 16 名(2 番目)、「天竺をめざした人々 異文化交流の文化史・求法と巡礼」、『北京・日語教学研究会『日語学習与研究』168号、査読無、2013.10、pp9 13

〔学会発表〕(計 11 件)

小峯和明、「日本と東アジアの 仏伝文学 『釈氏源流』を中心に」、『輔仁大学日本文学系日本古典文学国際研習会「文学・宗教 仏伝文学 的饗宴」』、2015年3月7日、台湾輔仁大学、台北市(台湾)

鈴木彰、「 仏伝文学 の展開と地域社会 十六・十七世紀を中心に」、『パリディドロ大学「アジアにおける「釈迦仏伝」の展開と

聖人伝承』、2015年1月24日、パリデイドロ大学、パリ（フランス）

小峯和明、「日本の絵巻と画中詞 絵画物語 論のために」、韓国日語日文学会（招待講演）、2014年12月20日、嘉泉大学、京畿道（韓国）

小峯和明、「日本と東アジアの 仏伝文学」、ロンドン大学 SOAS「日本と東アジアの 仏伝文学 と天竺世界」、2014年10月31日、ロンドン大学 SOAS、ロンドン（イギリス）

小峯和明、「日本と東アジアの 仏伝文学 と天竺世界 太子技芸譚から天界の塔へ」、中国人民大学国際学会「仏教と文学 日本金剛寺仏典籍調査研究成果報告国際学術シンポジウム」、2014年10月26日、中国人民大学、北京（中国）

鈴木彰、「文化拠点としての坊津一乗院 中世文芸と地域社会」、中国人民大学国際学会「仏教と文学 日本金剛寺仏典籍調査研究成果報告国際学術シンポジウム」、2014年10月26日、中国人民大学、北京（中国）

小峯和明、「日本と東アジアの 仏伝文学」、駒澤大学佛教文学研究大会、2014年9月25日、駒澤大学、東京都世田谷区（日本）

小峯和明、「日本僧と新羅僧たちの長安」、西北大学日本文化研究中心「古代長安と東アジア文化交流」学術シンポジウム、2014年8月24日、西北大学、西安市（中国）

小峯和明、「日本と東アジアの 仏伝文学 と天竺世界」、立教大学日本学研究所国際シンポジウム「日本と東アジアの 仏伝文学 と天竺世界」、2014年7月26日、立教大学日本学研究所、東京都豊島区（日本）

鈴木彰、「天竺・合戦・幸若舞 十六・十七世紀文芸への視座」、立教大学日本学研究所国際シンポジウム「日本と東アジアの 仏伝文学 と天竺世界」、2014年7月26日、立教大学日本学研究所、東京都豊島区（日本）

小峯和明、「仏伝文学 と孝養」、清華大学外国語言文系国際シンポジウム「東アジアの孝文化」、2013年11月2日、清華大学、北京（中国）

〔図書〕（計4件）

小峯和明編、他9名（1番目）『日本文学史』、吉川弘文館 2014、440（p1～63、p202～255、p308～347）

金文京著『三国志の世界』、広西師範大学出版、2014、375

小峯和明編、他32名（1番目）『日本文学史 古代・中世編』、ミネルヴァ書房、2013、389（p1～19、p22～24、p186～188、p326～329）

小峯和明編、他22名（2番目）『東アジアの今昔物語集 翻訳・変成・予言』、勉誠出版、2012、541（p27～49）

〔産業財産権〕  
出願状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

小峯 和明（KOMINE, Kazuaki）  
立教大学・名誉教授  
研究者番号：70127827

### (2) 研究分担者

鈴木 彰（SUZUKI, Akira）  
立教大学・文学部・教授  
研究者番号：40287941

金 文京（KIM, Bunkyo）  
京都大学・人文科学研究所・教授  
研究者番号：60127074

増尾 伸一郎（MASUO, Shinichiro）  
東京成徳大学・人文学部・教授  
研究者番号：60183943

### (3) 連携研究者

水口 幹記（MIZUGUCHI, Motoki）  
藤女子大学・文学部・准教授  
研究者番号：40339643

### (4) 研究協力者

金 英順 (KIM, Youngsoon)  
立教大学・文学部・兼任講師